

甲州市の「公共交通と市民福祉」

地に足の着いた公共交通を

去る12月19日、総務文教常任委員会の企画・運営により、市地域公共交通会議に出席されている市内交通事業者や利用者等の関係団体との座談会を行いました。公共交通における事業者や利用者の立場など様々な意見が飛び交い、市の未来について話し合いました。本特集では、その様子をまとめています。

ドライバー不足

議員 公共交通事業者側から、今の市の公共交通の課題は何かをお尋ねします。
事業者 タクシー業界はドライバー不足という課題を抱えています。更に、運転手の労働時間の制限が変わり、1日の拘束時間が13時間を厳守しなければなりません。市のピークは、高齢者の買い物や病院に通う時間なので、午前中の仕事を受重点的に対応しています。そうすると、夜間の勤務をさせるといことが困難になってきています。
事業者 バス事業者もドライバー不足は深刻です。弊社は乗り合い事業と貸し切り事業の主に2つのバス事業で運営しています。乗り合い事業は、乗務員が不足しているからといって、法的に欠使することができませんので、貸し切り事業の仕事を少なくして乗り合い事業へ乗務員を投入しています。このようにして地方の乗り合い事業を維持しているというのが現状です。
議員 タクシー業界、バス業界の現状を確認しました。そのような中、市の市

行きたいところに行ける公共交通を目指して

人口減少による過疎地域はバスやタクシーなどの公共交通機関の利用者が少なく、減便や廃止されるケースが多くあり、マイカーを持っていない高齢者は買い物や病院に行きたいときに行くことが困難な状況です。



デマンドバスの運行拡大

議員 デマンドバスが民間のタクシー会社あるいはバス会社の営業を圧迫しないかという懸念があります。今後、勝沼地区と大和地区にデマンドバスを配車するようになりますと、民間企業の営業を圧迫するようないことがおこるのでしょうか。
事業者 デマンドバス運行開始当初、タクシーの売り上げが落ちましたが、デマンドバス事業を請け負うことで、そのマイナス分を補填しようという考えを持っています。今後、勝沼地区、大和地区でデマンドバスを実施するとなると、私どもの経営圧迫よりも、市がどこまで支援するかが重要だと考えます。

議員 笛吹市ではAIデマンドバスを実施していますが、市のデマンド交通を考えると、AIの導入も含めてそれが路線拡大に繋がることは可能でしょうか。
事業者 できないことはないと思います。



女性ドライバーの活用

議員 ドライバー不足という件で、女性の活用はいかがでしょうか。
事業者 昨年からの始めたのが、軽自動車のタクシーを用いて女性のパートのドライバー募集に取り組んでいます。その結果、大きなセダンのタクシーは運転できないが、軽のタクシーなら運転できる、私はそれそれで社会に貢献したい、というので入社した方がいます。次年度以降も軽の電気自動車を増やし、女性ドライバーを増やしていきたいと思っています。

事業者 バスでは過去に何か名乗務してもらいましたが、今現在は女性の乗務員はおりません。拘束時間が長いというイメージもあり、なかなか難しい状況です。

事業者 日本版ライドシェア、私どもは12月13日に許可が下り、12月27日から金・土曜においては、夕方4時から10時までライドシェアを1台運行する予定であります。全ての課題を克服できる訳ではありませんが、

民バスをどのように担っていただいているのかをお聞かせ下さい。
事業者 市民病院の周辺を中心に、コンパクトシティ化が顕著というのを感じています。市民病院の周りに生活に必要なものが揃えるようになってきているので、今後は路線バスを走らせる路線から市民病院へ延伸すれば、より一層利便性が高まると感じています。
議員 公共交通を利用する市民としての要望や課題などのご意見を伺います。
沢田さん/老人クラブ 私は大和地区に住んでいますが、免許証も車も返した状態で今はバスを利用しています。実際に乗る方は買い物や病院に行くのに5、6人が乗る程度です。そのような中でも、運転手さんが足の不自由な方や、お年寄りの方の荷物を持って降ろしてあげたりと、非常に感激しています。しかし、バスの本数が少ないことが少し残念に思うところです。
宮原さん/社協 社協として、勝沼健康福祉センターから無料送迎バスを出しています。大和地区には週2回、その他は地区毎に週1

回の送迎をしています。また、車いすのまま乗れる車を2台保有しており、ほぼ毎日貸し出しをしている状況です。市がおこなっているデマンドバスについての意見として、現在の運行範囲は塩山エリアだけですが、大和エリアとか勝沼エリアへの拡大も検討してもらいたいです。
中村さん/民生委員 民生委員は独居高齢者と関わりを持って居ます。高齢者が足が不自由な方はその公共交通の乗る場所まで行くのも大変です。そのような方達に対してタクシー券を出して、買い物や病院に充てている市役所への送迎に充てていただくなど、より困っている方に特化した支援が必要だと思っています。また、車が無いと生活が不便というところで、高齢で少し認知症に罹っているような方で、催いぶ無理をして車を運転している方がいます。そういった方々にも危険を防止する意味では、何らかの形で支援をして、車の免許証の返納ということも高齢化の中では必要になってくると思います。

少しでもお役に立てると思いが実施いたします。
宮原さん/社協 社協の事業として、例えばゴミ出しとか買い物代行を行う、お助けサポートという事業を行っています。また、道路運送法の緩和に伴い今は検討段階ですが、車での送迎もお助けサポートのメニューに加えていきたいと思っています。
議員 バス・タクシー事業者の皆さんと、それを利用する市民の方々からご意見やご提案を頂きました。中には、ライドシェアやお助けサポートなど、先進的な取り組みやチャレンジも聞くことができ、明るい未来を想像できるように思いました。議会としても、甲州市の公共交通がより良いものになっていくよう取り組んで参ります。本日はありがとうございます。

- 総務文教常任委員会
◎高野浩一 ◎飯島孝也
丸山国一 ◎廣瀬明弘
高畑一幸 ◎青柳好文
平塚 悟 ◎相沢俊行
有賀公子

※地域交通の「担い手」「移動の足」不足解消のため、令和6年3月、タクシー事業者の管理の下で、自家用車・一般ドライバーを活用した運送サービスの提供を可能とする自家用車活用事業